コロナ禍における領域「健康」の指導方法
～環境の異なる園の幼児の運動あそびの比較を通して～

A Study on Teaching Skill of Domain “Health” during the Spread of COVID-19
-From a Comparative Study of Infants’ Physical Activity at two Kindergartens-

中　谷　昌　弘
Akihiro NAKATANI

１．はじめに

2020年１月から始まった新型コロナウイルス（COVID-19）の流行は、社会に広く深刻な影響を与えている。

2020年春の緊急事態宣言発令によって、幼稚園をはじめ各種学校の多くは休校を余儀なくされた。しかしながら、対面授業の要望が高まったことなどから、2020年６月あたりから、幼稚園や各種学校は対面授業を再開するようになったところが多くなった。ただ、ワクチン接種が滞っていることもあり、2021年７月現在でも、コロナウイルスの感染防止に気をつけながら、幼稚園や学校に通う子どもたちの生活は続いている。

奈良保育学院付属幼稚園でも、保育者たちを中心に、コロナ禍前より、手洗いを頻繁に行い、部屋の換気も気を使うなど、徹底した感染対策が行われている。運動活動に関しては、感染に留意しながら行われている。たとえば、「組体操を行わない」「サーキット遊びでは、待ち時間を少なくする」など少人数で密にならないように意識している。そして、できる限り、身体接触のあるシチュエーションを避ける取り組みが試みられている。

上記のように、コロナ禍が子どもたちの生活、とりわけ運動あそびに与えた影響は、計り知れないと思われる。そこで、その実態を明らかにする必要があると考える。

本稿の目的は、2020年12月、認定こども園姫路日ノ本短期大学附属幼稚園（以下、日ノ本短大幼稚園と略称）において、実施したアンケート結果および、2021年６月に奈良保育学院付属幼稚園（奈良保育学院幼稚園）において実施したアンケート結果と比較し、保護者が子どもたちが運動不足になっているのではないかという認知などについて考察するものである[1)]。筆者は、日ノ本短大幼稚園の調査結果から、

（１）幼稚園に通う園児の保護者の過半数は、コロナ禍の影響を受け、子どもの運動不足を認識している、

（２）子どもの活動は屋外でのものが減っているだけでなく、屋内運動量を見ても、日本スポーツ協会の指針を下回る子どもが少なくない、

（３）また、特にコロナ禍の負の影響として、保護者が子どもを友達と遊ばせることに不安を感じている、

などを確認した[2)]。ただ、これらの特徴は日ノ本短大幼稚園の子どもや保護者にのみ見られる特徴

かもしれない。奈良保育学院の子ども、保護者でも同様のことが指摘されるのか、探索的に議論することとしたい。

２．調査の手法と調査対象の幼稚園が置かれている環境の違い

２．１　調査の手法と地域特性

本稿の執筆にあたり、2021年６月、奈良保育学院幼稚園において実施したアンケートの調査の方法は、次の通りである。

奈良保育学院幼稚園で実施した調査の方法および調査内容は、基本的に2020年12月に日ノ本短大幼稚園で実施したものに準じている[3)]。調査の対象者は、奈良保育学院幼稚園の保護者86名である（３歳児26名、４歳児30名、５歳児30名）。保護者に対し、2021年６月21日に奈良保育学院付属幼稚園にアンケートの配布を依頼し、６月28日に回収した。

なお、アンケートは個人情報が特定されないよう、無記名で実施した。回収されたアンケート結果は、外部に流出しないようExcelへの入力はすべて筆者が１人で行った。

２．２　調査対象の幼稚園の置かれている環境の違い

アンケートを比較する前に、アンケートを実施した二つの幼稚園が置かれている環境の違いについて指摘しておきたい。

日ノ本短大幼稚園の所在地である姫路市の総人口は約53万人、総世帯数は約22万（令和３年１月１日現在）であり、奈良保育学院幼稚園の所在地の奈良市の総人口は、約35万４千人、総世帯数は16万６千世帯（令和３年７月１日現在）である。そのため、両幼稚園は共に都市部にある幼稚園と認識するかもしれない。

たしかに、2021年に新たにアンケートを実施した奈良保育学院は、奈良市の中心という、交通の便も良く、社会生活を営むのに、きわめて恵まれた場所に立地している。都市生活の環境が整っている反面、子どもたちにとって自由に走り回れる空間は限られている。一方、日ノ本短大幼稚園が位置しているのは、姫路市といっても北部の旧香寺町のエリアである。姫路市と商工業が盛んな福崎町に挟まれてはいるものの、農村地帯の色彩も色濃く残す地域である。幼稚園の母体である日ノ本学園は広大な敷地を有しており、園児たちは幼稚園の園庭で遊ぶだけでなく、豊かな自然に触れあうことができる。この点で、マンションなどで生活する園児も数多くいる奈良保育学院幼稚園の運動あそびの家庭環境と、日ノ本短大幼稚園のそれとは、大きく異なっていると言える。

２．３　アンケートの時期の違い

両調査では、アンケートを実施した時期が違うのでその点も予め述べておきたい。今回、奈良保育学院幼稚園で実施したアンケート調査は、最初に発令された緊急事態宣言から１年以上が経過した2021年の６月末に実施したものであり、日ノ本短大幼稚園の調査と約半年のラグがある。この期間中に、医療従事者に対するワクチン接種がスタートしたり、自粛慣れが生じたりしている。そのため、この時間差が両幼稚園の回答結果の差の１つの要因になっている可能性は否定できない。しかし、コロナ禍の終息が見通せない点は共通しており、調査のタイムラグはそれほど影響がないと

筆者は考える。

３．アンケート結果の分析

３．１　アンケート結果の比較

2021年に奈良保育学院幼稚園で実施した調査項目は、前述したように、2020年に実施した日ノ本短大幼稚園のアンケート調査に準じているため、比較可能である。奈良保育学院幼稚園の集計結果と日ノ本短大幼稚園の集計結果を比較し、筆者は、

（１）ほぼ同じ値であった項目、

（２）結果が５ポイント以上の差があるが、10ポイントまでは開かなかった項目、

（３）10ポイント以上の差があった項目、

に分類した。紙幅の都合もあるので、本稿では両者の結果に差があった（３）に注目し、議論を行うことにしたい。

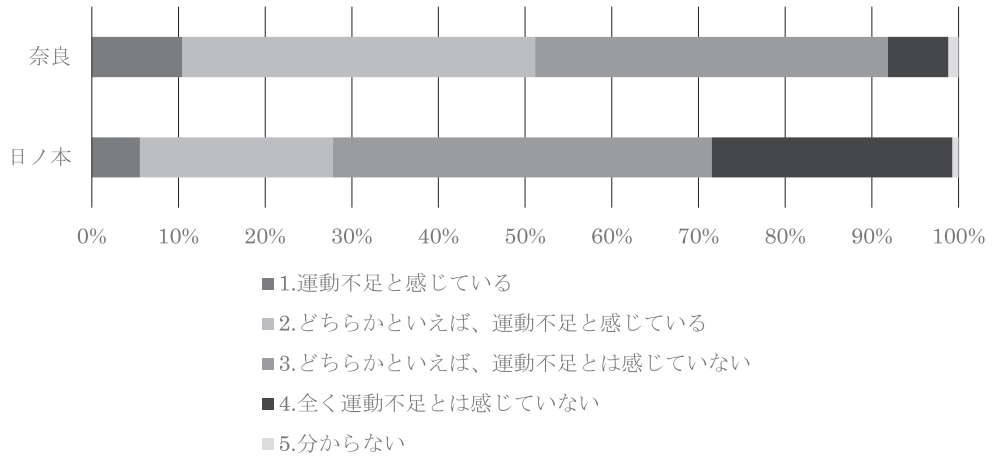
３．１．１　子どもが運動不足と感じているか

コロナ禍で大きな問題となったのは、子どもの運動不足である。三密を回避することが奨励された結果、子どもたちが集まって一緒に遊びづらい環境が生じた。また外出を自粛した動きも子どもの運動不足を誘発したと考えられる。

それでは両園の保護者たちは、子どもの運動不足についてどう認識しているのだろうか。

図１は、それについての問いに対する回答結果を図示したものである。図１の結果からは、日ノ本短大幼稚園の保護者と奈良保育学院幼稚園の保護者の間に大きな差があることが確認できる。奈良の保護者の「運動不足と感じている」と「どちらかといえば運動不足と感じている」の合わせた比率は、約50％にもなる。一方、日ノ本の保護者のそれは30％に満たない。

図1　現在、子どもが運動不足であると感じているか



日本スポーツ協会は、子どもの身体活動ガイドライン[4)]として、最低限必要な子どもの身体活動量を１日１時間と定義している。コロナ禍では自宅内で体を動かすことが多くなると考えると、自宅で子どもたちはどの程度体を動かしているか、気になるところである。

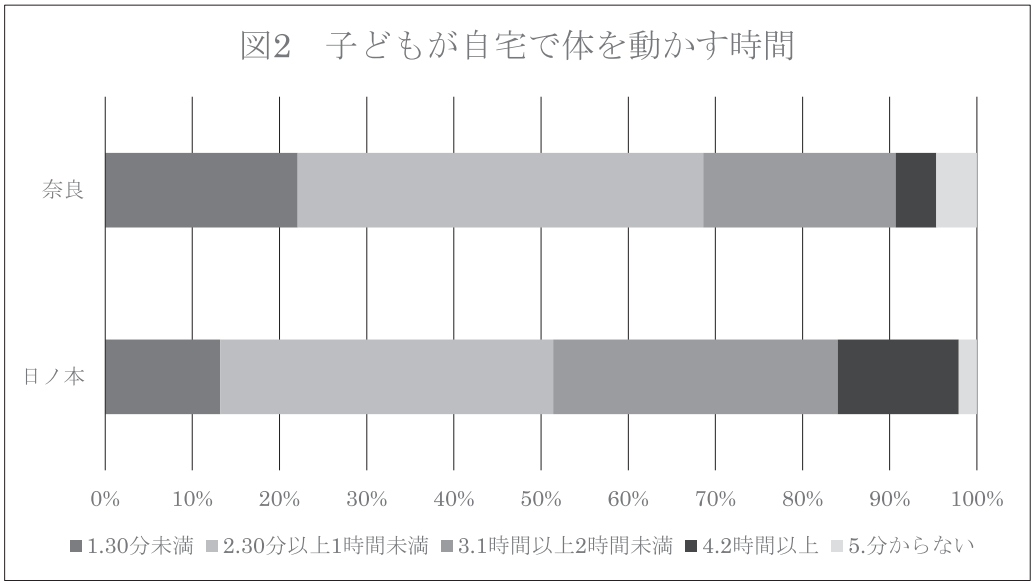


図２は、「今週１週間を振り返ってみて、子どもが自宅の中で体を動かしていた１日あたりの時間は平均して概ねどれくらいか」という問いに対する回答結果である。子どもが自宅内で体を動かしていた時間は「１時間未満」という結果を比較すると、そう答えた日ノ本の保護者は51.4％であるが、奈良の保護者は67.8％と10ポイントも多い。それに対して、「１時間以上」と答えた保護者の比率を比較すると、日ノ本が46.53％に対して奈良が26.44％と20ポイント以上の開きがあった。

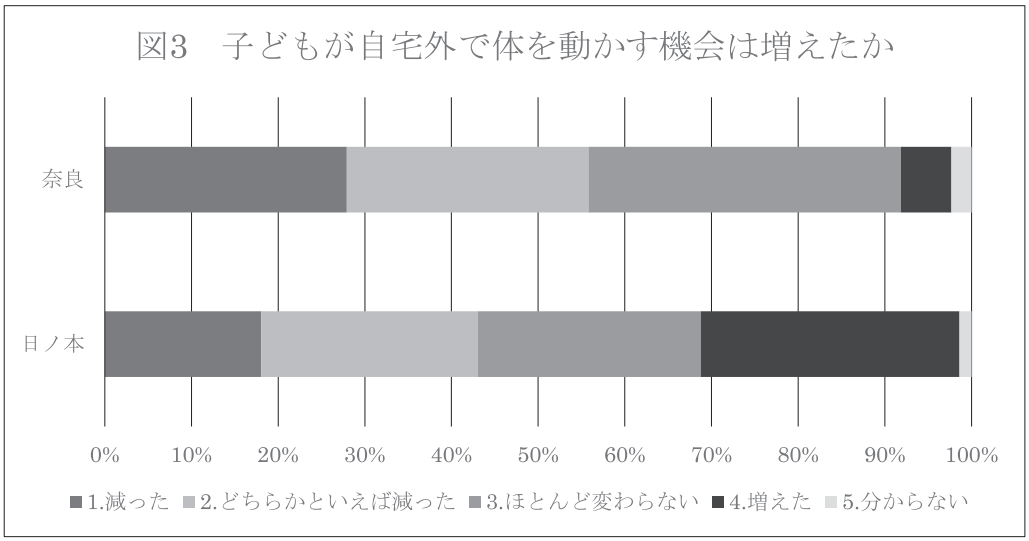
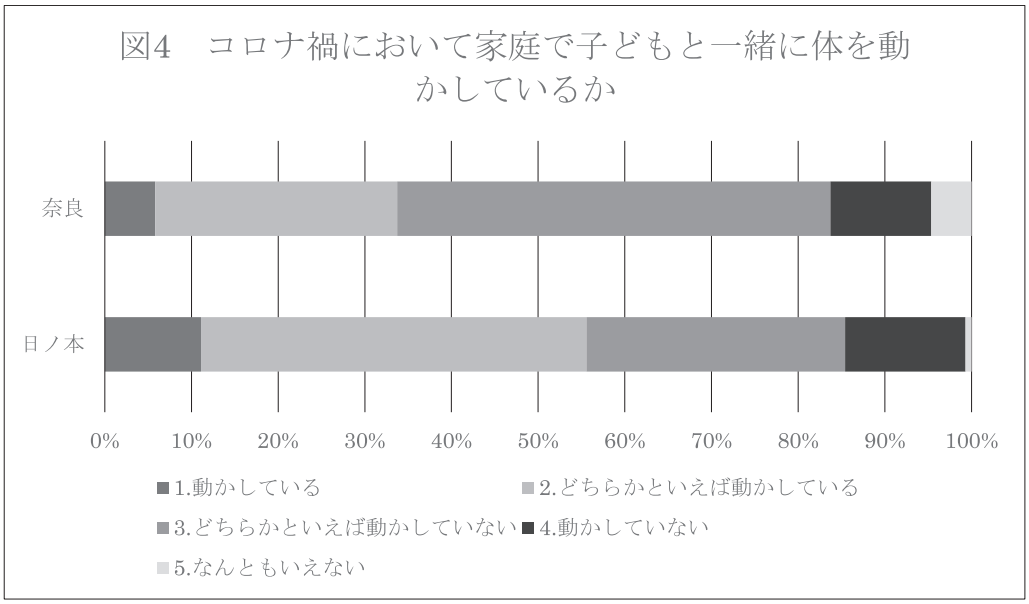


図３は、「子どもが自宅外で体を動かす機会が変化したか」を聞いた問いの回答結果である。

自宅外で体を動かす機会がコロナ禍で「減った」「どちらかといえば減った」と答えた比率は、日ノ本の保護者では43.06％であったのに対し、奈良の保護者では55.17％という値であった。図２と図３を合わせて考えると、

（１）保護者たちはコロナ禍の影響で子どもが運動不足に陥っていると認識している、

（２）保護者の認識から、日ノ本短大幼稚園の園児より奈良保育学院幼稚園の園児の方が相対的に運動不足のようである、



ということが言えるだろう。

ただ、子どもが運動不足と認識しつつも、「保護者と一緒に体を動かそう」という状況にはなっているかは、保護者の置かれている環境が大きく影響しているようである。図４は、「コロナ禍において家庭で子どもと一緒に体を動かしているのかどうか」という質問の回答結果である。比較的周りに自然の多い日ノ本の保護者の方が子どもと一緒に体を動かしていることがうかがえる（日ノ本55.56％、奈良33.33％）。自宅外に家族と一緒に運動しやすい空間があるか否かは、子どもの運動不足を考える上で１つの鍵なのかもしれない。

３．１．２　コロナ禍でストレスを感じているか

ところで、運動不足とストレスは関連性が高いと考えられる。運動あそびをすることができないことで、子どもたちのストレスが溜まると思われるからである。また子どもたちがストレスを溜めることが、親のストレスを誘発する可能性もある。

図5　コロナ禍の影響を受け、子どもは以前より強いストレスを感じているか

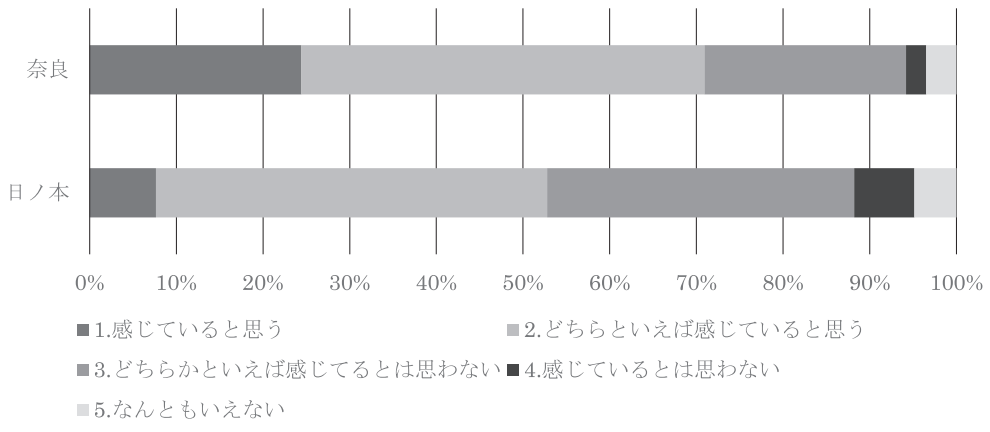
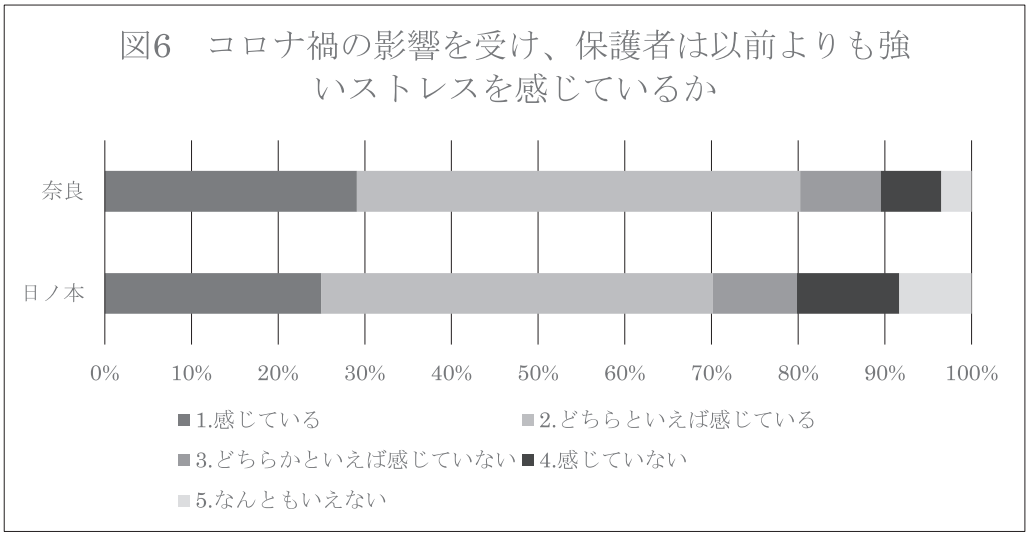


図５、図６は、親と子どもとのストレスに関するアンケートの回答結果である。子どもが以前より強いストレスを感じているかの問いについては、両幼稚園の保護者とも「感じていると思う」「どちらかといえば感じていると思う」と回答する傾向にある。とりわけ、日ノ本と奈良の回答比率を比較すると前者の保護者が52.78%であったのに対し、後者は70.11%とより高かった。

ただ、保護者自身のストレスについての回答結果は、子どものストレスの回答ほどの差違は見られなかった。



３．２　両園の保護者の差違に関する考察

ここまでの結果から、どのようなことが言えるだろうか。

まず、指摘できるのは、コロナ禍によって子どもが運動不足と認識している保護者が両園とも多いという点である。ここから、コロナ禍によって子どもたちが運動不足になっているという言説は妥当であると思われる。

ただ、日ノ本短大幼稚園と奈良保育学院幼稚園の間で回答結果に差違がある。保護者の認識レベルでは、奈良の子どもたちの方が、日ノ本の子どもたちと比べ、相対的に運動不足に陥っている。また、奈良の方が、子どもがよりストレスを感じていると認識する親が多い。この差違が生じている原因は何か。

両園と関わりがある筆者は、生活居住環境の差がその主要な原因と考える。両園の回答結果を比較すると、コロナの圧力がより強くのしかかってきているのは奈良の方である。田園が残る郊外型の日ノ本に比べ、奈良保育学院幼稚園の保護者と子どもの住環境は都会密集型であり、自宅内外で運動をするスペースの制限が強く、子どもたちが三密を気にせずに体を動かせる空間が少ない。それが影響しているのではないか。奈良は、少し歩くと広い奈良公園があり、幼稚園としては魅力ある運動遊びを提供することも可能と思われるが、家庭レベルで日々それを提供するのは厳しいのかもしれない。

４．おわりに

筆者は、2021年７月３日に京都府京都市で開催されたアクティブ・チャイルド・プログラム指導実践研修会（日本スポーツ協会主催）に参加した。講師を務めた佐藤善人東京学芸大学教育学部准教授と吉田繁敬氏（アイ・プラス株式会社）によると、コロナ禍は、「子どもが運動に関わっていく機会が増えるチャンスだと考えている」と話されていた。その理由は、コロナ禍によって、保護

者の中に運動の必要性を感じ、興味を持ち始めている者が現れだしているからだという[5)]。コロナ禍は子どもの運動する機会が減ってきているとの話であったが、今は、チャンスととらえ、特殊な状況でこそ、指導者側の工夫によってチャンスにすることができる可能性があると話されていた。

今回の比較から、コロナ禍によって子どもたちが体を動かす機会を確保することが、コロナ前よりも難しくなっていることが見てとれた。更に、都市密集型の奈良の子どもたちの方が、自宅外で運動できるところが制限されている等の影響から体を動かせず、郊外型の日ノ本の子どもたちよりもストレスを感じていることが確認できた。幼少期の運動あそびは子どもたちの成長に大きく影響を与えるというScammonの考えに従えば[6)]、神経系の発達が著しい一番大切な時期に運動あそびがコロナ禍によって制限されることは、子どもの健全な成長、ひいては将来にも影響すると思われる。

コロナ禍が長引き、１年以上経過した現時点でも先行きが見えない状況の中、時間が経過すればするほど、子どもの運動不足の傾向は強まっているような印象を受ける。また繰り返しとなるが、アンケートの比較の結果、住環境によっても子どもの運動あそびは影響を受ける。

そこで、本稿の終わるにあたり、次の点を提言したいと思う。

・より少ない空間での運動や遊びをするには、参考となる素材の提供が欠かせない。ただ、全ての保護者がスポーツ等に関心があるわけではないし、知見をSNSなどで集めようにもとっかかりがなければ難しい。保護者が子どもと体を動かすには、一緒に体を動かす場の提供が必要であり、良く考えられた素材を何らかの形で提供する必要がある。

・コロナ禍において、幼稚園は平時以上に子どもたちが体を動かす場の１つと位置付けられるだろう。幼稚園の実施している園庭開放や勉強会の中に、体を動かすための素材を提供する機会をより多くつくり、幼稚園教諭やそれを目指す学生・生徒と共に運動あそびのできる環境を整える必要がある。そうすれば、体の動かし方を保護者が学ぶ貴重な機会ともなるのではないか。また今回の調査結果を鑑みると、住まいがマンションなどの集合住宅であればあるほど、母親が専業主婦であればあるほど、それを行う効果はより大きいと思われる。

・幼稚園教諭などのカリキュラムに、自宅内において体をどう動かしたらよいか、動画などを作成する場をつくることが必要ではないか。また、アスリート経験者など専門的な知見がある外部者に監修を依頼し、幼稚園教諭の育成機関の教員や学生・生徒、付属幼稚園教諭、そこに預けている保護者と共有するような仕掛けを試みてもよいのではないか。

・奈良保育学院幼稚園では、９時から15時の通常の登園の後に、15時以降の預かり保育を行っている。ただ、その預かり保育には数名の子どもしか残らないという。その預かり保育の時間を利用し、全国大会を目指しているような高校生の補助を仰ぎながら、魅力的な指導実践を行ったらどうか。そのような事は、保護者と子どものストレス解消の機会につながるのではないか。

なお、本稿で採りあげなかった回答については、別の機会に考察を試みることにしたい。

【謝辞】
本稿の執筆にあたり、奈良保育学院付属幼稚園の中町泰子園長、幼稚園教諭及び保護者からの協力をいただいた。本稿の最後に記して感謝申し上げたい。

１）奈良保育学院幼稚園での調査結果は、本稿の末尾にある資料を参照。
２）中谷昌弘（2021）コロナ禍における幼児の運動遊び – 姫路日ノ本短期大学付属幼稚園のアンケートから –
３）中谷、前掲論文。2020年12月実施の日ノ本短大幼稚園の調査対象保護者は144名である（１歳児から２歳児28名、３歳児43名、４歳児33名、５歳児40名）。
４）出典　幼児期運動指針:文部科学省
５）日本スポーツ協会主催の、アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を活用した「親子運動」イベントへの参加者もこれまで以上に増えているという。
６）出典　著者:重安智子, 安見克夫,『保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む』, 出版社:ミネルヴァ書房, 2020

2021年度「コロナ禍における幼児の運動あそび」についてのアンケート調査

この調査は、新型コロナ禍における幼児の運動あそびの実態を把握するとともに、その対策について学術的に検討するために行う調査です。個人の能力の把握や家庭環境を確認することがこの調査の目的ではありません。また、調査データは統計的に処理しますので個人が特定されることはありません。しかし、念のため、**このアンケート用紙は無記名で2021年6月28日(金)までに、封をしてクラス担任に提出**するようお願いします。

この調査の対象者は、奈良保育学院付属幼稚園の3歳児から5歳児の保護者の方にお願いしています。調査についてですが、とくに指示がない場合は、各設問につき1つだけ○をつけるようにしてください。通園している兄弟姉妹がいるようでしたら、お子さま1人ずつご回答ください。お忙しいところおそれいりますが、ご協力のほど、お願い申し上げます。

奈良保育学院　幼児体育担当教員　中谷　昌弘

お子さまの運動環境について質問します。

（1） 昨年4月から今年3月末までの間、あなたのお子さまが運動不足であると感じていましたか。

1. いつも感じていた
2. ときどき感じていた
3. あまり感じなかった
4. 全く感じていなかった
5. 分からない

（2） 昨年4月から今年3月末までの間、あなたのお子さまが友だちと遊ぶことに不安がありましたか。

1. いつも不安があった
2. やや不安があった
3. あまり不安はなかった
4. 全く不安はなかった
5. 分からない

（3） 現在、あなたのお子さまが運動不足であると感じていますか。

1. 運動不足と感じている
2. どちらかといえば、運動不足と感じている
3. どちらかといえば、運動不足とは感じていない
4. 全く運動不足とは感じていない

5. 分からない

（4） コロナ禍の中、あなたのお子さまが友だちと遊ぶことに不安がありますか。

1. 不安はある
2. どちらかといえば不安はある
3. どちらかといえば不安はない
4. 全く不安はない
5. 分からない

（5） あなたはコロナ禍下において開催されている、プロ野球やJリーグのTV中継を見て、不安を感じますか。

1. 不安を感じる
2. どちらかといえば不安を感じる
3. 不安を感じない
4. なんとも言えない
5. 分からない

お子さまの運動状況について質問します。

（6） 日本スポーツ協会では、子どもの身体活動ガイドラインとして、最低限必要な子どもの身体活動量を1日1時間と定義しています。今週1週間を振り返ってみて、あなたのお子さまがご自宅の中で体を動かしていた1日あたりの時間は平均して概ねどのくらいでしょうか。

※ここでいう身体活動とは、室内で体を動かして遊ぶ、階段を昇る、床の雑巾がけや窓ふきなど、日常生活として体を動かすこと全てを指します。

1. 30分未満
2. 30分以上1時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 2時間以上
5. 分からない

（7） コロナ禍前と比べ、あなたのお子さまは自宅外で体を動かす機会は増えましたか。

1. 減った
2. どちらかといえば減った
3. ほとんど変わらない
4. 増えた
5. 分からない

（8） コロナ禍前と比べ、お子さまが主として体を動かす場所（たとえば、自宅の中から外へ）に変化はありましたか。

1. あった
2. なかった

・8 の問いで「1. あった」と答えた方に質問します。どこからどの様な場所にうつりましたか。

(　　)

お子さまとの関係について質問します。

（9） 今年の 4 月以降、家庭でお子さまと一緒に体を動かしていますか。思っているレベルでお答えください。

1. 動かしている
2. どちらかといえば動かしている
3. どちらかといえば動かしていない
4. 動かしていない
5. なんともいえない

・9 の問いで「1. 動かしている」「2. どちらかといえば動かしている」と答えた方に質問します。具体的にどのようなことを行っていますか。時間も含めてお答えください。

内容（　　）

時間（　　分ぐらい）

（10） コロナ禍が始まって以降、お子さんの運動不足解消の観点から、何か始められたことはありますか。

1. ある
2. ない
3. 自分の子どもが運動不足とは思っていない

・10 の問いで「1. ある」と答えた方に質問します。具体的にどのようなことを行っていますか。

内容（　　）

（11） コロナ禍以降、あなたはYouTubeなどの情報を参考に、お子さまと一緒に体を動かしたことはありますか。

1. ある
2. ない

生活の変化について質問します。

（12） コロナ禍前と比べて、お子さまが家庭でゲームする時間は増えましたか。

1. 増えた
2. どちらかといえば増えた
3. 変化はほとんどない
4. どちらかといえば減った
5. 減った
6. 家庭ではゲームをさせていない（またはできない）
7. 分からない

（13） コロナ禍前と比べて、お子さまが絵本を見たり、お話に親しんだりする時間は増えましたか。

1. 増えた
2. どちらかといえば増えた
3. 変化はほとんどない
4. どちらかといえば減った
5. 減った
6. 分からない

（14） コロナ禍の影響を受け、あなたは以前よりも強いストレスを感じていますか。

1. 感じている
2. どちらといえば感じている
3. どちらかといえば感じていない
4. 感じていない
5. なんともいえない

（15） コロナ禍の影響を受け、お子さまは以前よりも強いストレスを感じていますか。

1. 感じていると思う
2. どちらといえば感じていると思う
3. どちらかといえば感じてるとは思わない

4. 感じているとは思わない
5. なんともいえない

・15 の問いで「1. 感じていると思う」「2. どちらといえば感じていると思う」と答えた方にお聞きします。あなたは、お子さまのストレス解消策として下記のようなものを行いましたか。該当するもの全てに○をつけてください。

1. 旅行に行った
2. スポーツの観戦に行った
3. 遊園地に行った
4. 祖父母に会いに行った
5. 友達と遊ぶ機会をつくった
6. ゲーム機など子どもが欲しいものを買った
7. その他（　　）

（16） 今年度に入って、ご家庭では次のことを行いましたか。該当するもの全てに○をつけてください。

1. 家でできる遊びを考えた
2. 室内で身体を動かせる運動器具(トランポリン等)を購入した
3. YouTube で子ども体操を見て一緒におこなった
4. 絵本の読み聞かせをした
5. 自宅にブランコや滑り台、ハンモックなど、外で遊べるものを用意した
6. 英語の DVD 動画を見せた
7. 三輪車もしくは自転車を購入した。
8. その他（　　）

（17） 新型コロナウイルスの感染拡大によって、ご家庭では次のような変化がありましたか。該当するものを全てに○をつけてください。

1. 食事や衛生面に気を遣うようになった
2. 家族と過ごす時間が増えた
3. コミュニケーションが増えた
4. 人混みの場所に行くことをできる限り避けるようになった
5. 在宅勤務が増え、夫婦での家事が増えた
6. 喧嘩が増えた
7. その他（　　）

（ 18 ） コロナ禍で外出や運動する機会が減る傾向にあると言われますが、お子さまの発育・発達に悪い影響を及ぼしていると思われますか。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. 分からない

あなた及びお子さまに関する質問です。

（19） お子さまの学年は次のうち、どれですか。

1. 3 歳児
2. 4 歳児
3. 5 歳児

（20） お子さまには小学生以上の兄・姉はいますか。

1. はい
2. いいえ

・20 の問いで「1. はい」と答えた方に質問です。兄・姉のいずれかは少年団やスポーツクラブ、習い事などで何らかのスポーツをされていますか。

1. はい
2. いいえ

（21） あなたは高校生時代スポーツをされていましたか。該当するものに〇をつけてください。

1. 全国大会を目指すレベルでスポーツをしていた
2. 同好会・サークルレベルで楽しくスポーツをしていた
3. 高校時代、スポーツはしていない
4. その他（　　）

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
このアンケートの集計結果は後日、報告させて頂きます。

最終提出日 2021 年 6 月 28 日(月)

資料

奈良保育学院附属幼稚園の保護者に対して実施したアンケートの集計結果

（多重回答の質問は除く）

Ｑ１. 昨年の４月から今年の３月までの間、あなたのお子さまが運動不足であると感じていましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. いつも感じていた	19	21.8	22.1	22.1
	2. ときどき感じていた	39	44.8	45.3	67.4
	3. あまり感じなかった	22	25.3	25.6	93.0
	4. 全く感じていなかった	5	5.7	5.8	98.8
	5. 分からない	1	1.1	1.2	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Ｑ２. 昨年の４月から今年３月末までの間、あなたのお子さまが友だちと遊ぶことに不安がありましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. いつも不安があった	7	8.0	8.1	8.1
	2. やや不安があった	45	51.7	52.3	60.5
	3. あまり不安はなかった	27	31.0	31.4	91.9
	4. 全く不安はなかった	7	8.0	8.1	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Ｑ３. 現在、あなたのお子さまが運動不足であると感じていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 運動不足と感じている	9	10.3	10.5	10.5
	2. どちらかといえば、運動不足と感じている	35	40.2	40.7	51.2
	3. どちらかといえば、運動不足とは感じていない	35	40.2	40.7	91.9
	4. 全く運動不足とは感じていない	6	6.9	7.0	98.8
	5. 分からない	1	1.1	1.2	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Ｑ４. コロナ禍の中、あなたのお子さまが友だちと遊ぶことに不安がありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 不安はある	10	11.5	11.6	11.6
	2. どちらかといえば不安はある	39	44.8	45.3	57.0
	3. どちらかといえば不安はない	27	31.0	31.4	88.4
	4. 全く不安はない	7	8.0	8.1	96.5
	5. 分からない	3	3.4	3.5	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Ｑ５. あなたはコロナ禍において開催されている、プロ野球やJリーグのTV中継を見て、不安を感じますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 不安を感じる	8	9.2	9.3	9.3
	2. どちらかといえば不安を感じる	24	27.6	27.9	37.2
	3. 不安を感じない	24	27.6	27.9	65.1
	4. なんとも言えない	19	21.8	22.1	87.2
	5. 分からない	11	12.6	12.8	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Ｑ６. 日本スポーツ協会では、子どもの身体活動ガイドラインとして、最低限必要な子どもの身体活動量を１日１時間と定義しています。今週１週間を振り返ってみて、あなたのお子さまがご自宅の中で体を動かしていた１日あたりの時間は平均して概ねどのくらいでしょうか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 30分未満	19	21.8	22.1	22.1
	2. 30分以上１時間未満	40	46.0	46.5	68.6
	3. １時間以上２時間未満	19	21.8	22.1	90.7
	4. ２時間以上	4	4.6	4.7	95.3
	5. 分からない	4	4.6	4.7	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Ｑ７. コロナ禍前と比べ、お子さまの自宅外で体を動かす機会は増えましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 減った	24	27.6	27.9	27.9
	2. どちらかといえば減った	24	27.6	27.9	55.8
	3. ほとんど変わらない	31	35.6	36.0	91.9
	4. 増えた	5	5.7	5.8	97.7
	5. 分からない	2	2.3	2.3	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q８. コロナ禍前と比べ、お子さまが主として体を動かす場所（たとえば、自宅の中から外へ）に変化はありましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. あった	30	34.5	34.9	34.9
	2. なかった	56	64.4	65.1	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q９. 今年の４月以降、家庭でお子さまと一緒に体を動かしていますか。思っているレベルでお答えください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 動かしている	5	5.7	5.8	5.8
	2. どちらかといえば動かしている	24	27.6	27.9	33.7
	3. どちらかといえば動かしていない	43	49.4	50.0	83.7
	4. 動かしていない	10	11.5	11.6	95.3
	5. なんともいえない	4	4.6	4.7	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q10. コロナ禍が始まった以降、お子さんの運動不足解消の観点から、何か始められたことはありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. ある	27	31.0	31.4	31.4
	2. ない	47	54.0	54.7	86.0
	3. 自分の子どもが運動不足とは思っていない	12	13.8	14.0	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q11. コロナ禍以降、あなたはYouTubeなどの情報を参考に、お子さまと一緒に体を動かしたことはありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. ある	35	40.2	40.7	40.7
	2. ない	51	58.6	59.3	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q12. コロナ禍前と比べて、お子さまが家庭でゲームする時間は増えましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 増えた	15	17.2	17.4	17.4
	2. どちらかといえば増えた	19	21.8	22.1	39.5
	3. 変化はほとんどない	17	19.5	19.8	59.3
	4. どちらかといえば減った	2	2.3	2.3	61.6
	5. 減った	0	0	0	61.6
	6. 家庭ではゲームをさせていない（またはできない）	33	37.9	38.4	100.0
	7. 分からない	0	0	0	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q13. コロナ禍前と比べて、お子さまが絵本を見たり、お話に親しんだりする時間は増えましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 増えた	12	13.8	14.0	14.0
	2. どちらかといえば増えた	33	37.9	38.4	52.3
	3. 変化はほとんどない	39	44.8	45.3	97.7
	4. どちらかといえば減った	2	2.3	2.3	100.0
	5. 減った	0	0	0	100.0
	6. 分からない	0	0	0	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q14. コロナ禍の影響を受け、あなたは以前よりも強いストレスを感じていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 感じている	25	28.7	29.1	29.1
	2. どちらといえば感じている	44	50.6	51.2	80.2
	3. どちらかといえば感じていない	8	9.2	9.3	89.5
	4. 感じていない	6	6.9	7.0	96.5
	5. なんともいえない	3	3.4	3.5	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q15. コロナ禍の影響を受け、お子さまは以前よりも強いストレスを感じていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 感じていると思う	21	24.1	24.4	24.4
	2. どちらといえば感じていると思う	40	46.0	46.5	70.9
	3. どちらかといえば感じていると思わない	20	23.0	23.3	94.2
	4. 感じているとは思わない	2	2.3	2.3	96.5
	5. なんともいえない	3	3.4	3.5	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q16. 今年度に入って、ご家庭では次のことを行いましたか。該当するもの全てに○をつけてください。

1. 家でできる遊びを考えた
2. 室内で身体を動かせる運動器具（トランポリン等）を購入した
3. YouTubeで子どもと体操を見て一緒におこなった
4. 絵本の読み聞かせをした
5. 自宅にブランコや滑り台、ハンモックなど、外で遊べるものを用意した
6. 英語のDVD動画を見せた
7. 三輪車もしくは自転車を購入した
8. その他

Q17. 新型コロナウイルスの感染拡大によって、ご家庭では次のような変化がありましたか。該当するものを全てに○をつけてください。

1. 食事や衛生面に気を遣うようになった
2. 家族と過ごす時間が増えた
3. コミュニケーションが増えた
4. 人混みの場所に行くことをできる限り避けるようになった
5. 在宅勤務が増え、夫婦での家事が増えた
6. 喧嘩が増えた
7. その他

Q18. コロナ禍で外出や運動する機会が減る傾向にあると言われますが、お子さまの発育・発達に悪い影響を及ぼすと思われますか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. そう思う	18	20.7	20.9	20.9
	2. どちらかといえばそう思う	43	49.4	50.0	70.9
	3. どちらかといえばそう思わない	10	11.5	11.6	82.6
	4. そう思わない	8	9.2	9.3	91.9
	5. 分からない	7	8.0	8.1	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q19. お子さまの学年は次のうち、どれですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 3歳児	26	29.9	30.2	30.2
	2. 4歳児	30	34.5	34.9	65.1
	3. 5歳児	30	34.5	34.9	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q20. お子さまには小学生以上の兄・姉はいますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. はい	31	35.6	36.0	36.0
	2. いいえ	55	63.2	64.0	100.0
	合計	86	98.9	100.0	

Q21. あなたは高校生時代スポーツをされていましたか。該当するものに○をつけてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1. 全国大会を目指すレベルでスポーツをしていた	11	12.6	12.8	12.8
	2. 同好会・サークルレベルで楽しくスポーツをしていた	16	18.4	18.6	31.4
	3. 高校時代、スポーツはしていない	59	67.8	68.6	100.0
	合計	86	98.9	100.0	